

平成30年度 京都府立東舞鶴高等学校浮島分校 学校経営計画（スクールマネージメントプラン）（実施段階）

平成31年 3月

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>☆夜間定時制高校としての役割を果たし、地域を支える勤労青少年の育成を目指す。</p> <p>1 日々の授業を大切にするとともに、学習指導・進路指導・生徒指導の3つを一体的にとらえ、きめ細かい丁寧な指導を行うことにより学力を向上させ社会を生き抜く力を身につける。</p> <p>2 生徒一人ひとりが家庭・地域社会で認められ、学校生活の様々な場で成就感・達成感を持てる学校を目指す。</p> <p>3 教師と生徒が共同し、基本的な規範意識と倫理観、公共心や思いやりなど、人間性・社会性を育むとともに、安心・安全な学校づくりを目指す。</p>	<p>（成果）</p> <p>1 授業補助者を効果的に配置することで課題のある生徒に支援ができた。</p> <p>2 ICTの活用、教材のプリントやスマートフォンステップ化などの工夫が生徒の理解の向上に繋がった。</p> <p>3 積極的に生徒とのコミュニケーションを取り、日々の連絡会等で共通認識を図り対応することで、退学、休学や長期欠席の生徒が例年と比べて少なかった。また、目立った問題行動も少なくなっている。生徒にとって学校が居場所として機能している。</p> <p>4 後半には学校全体が落ち着いた状態となり、生徒の授業に向かう姿勢が改善された。</p> <p>（課題）</p> <p>1 主体的な学習参加の促進</p> <p>2 学習指導の工夫・改善</p> <p>3 自己肯定感・自己有用感の育成</p> <p>4 規範意識の向上と好ましい態度の育成</p> <p>5 授業規律確立に向け継続した指導</p> <p>6 系統立てた進路指導による希望進路の実現</p> <p>7 保護者とつながり連携した指導</p> <p>8 個に応じた支援の充実</p>	<p>1 基礎・基本を重視した学習指導の充実</p> <p>(1) きめ細やかな学習支援を行い基礎学力の向上を図る。</p> <p>(2) 学習指導方法の改善を図るとともに、達成感や自己肯定感・自己有用感が実感できる授業を展開する。</p> <p>2 コミュニケーションを大切にした生徒指導の充実</p> <p>(1) 生徒の内面や生活状況等を把握し、適切なアドバイスを心がけ、自立した社会人を育てる。</p> <p>(2) 人権意識の高揚、規範意識の向上に取り組む。</p> <p>3 生徒一人ひとりの個性を尊重した教育活動の推進</p> <p>(1) 生徒の意欲、学校への帰属意識を高める学校行事・生徒会活動の実践。</p> <p>(2) 生徒の将来を考えた進路指導の推進。</p> <p>4 家庭・地域から信頼される学校づくりの推進</p> <p>(1) 保護者との連携を密にし、共通認識のもと生徒の指導にあたる。</p> <p>(2) 地域との連携を図り、様々な機会を通じて情報を発信するとともに、地域人材を活用する。</p> <p>(3) 各生徒に応じた適切な支援を行う。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
基礎・基本を重視した学習指導の充実	きめ細やかな学習支援を行い基礎学力の向上を図る	TTによる授業や授業補助を活用し、生徒一人ひとりの学習を支援する。	B	B	<p>学習支援者による授業支援や教員の空き時間授業サポートは一定の成果が上がっている。特別な支援が必要な生徒が増えている現状では十分な対応ができていない。</p> <p>全体的に落ち着いた態度で学習できている。学習プリントには取り組むのだが、学習内容に興味を持たせるに至っていないことが課題で、定着が悪く真の学力となりにくい。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」に向けて工夫・改善する必要があるが、生徒の実態に即して授業展開を工夫することが精一杯である。</p> <p>校内漢字検定には意欲的で合格率は大変高い。</p>
		生徒個々の知識や理解の現状を把握し、生徒一人ひとりに目標を持たせる授業を実践する。	B		
		小テスト、学習の振り返りを利用して、生徒の理解の状態をフィードバックし、柔軟な指導を行う。	B		
		基礎的・基本的な問題演習に多く取り組み、反復することにより学習内容を定着させる。	B		
	学習指導方法の改善を図るとともに、達成感や自己肯定感・自己有用感が実感できる授業を展開する	段階を踏まえたスモールステップの組み立てとすることにより達成感を感じさせる授業を行う。	B	B	
		アウトプットする時間を授業中に増やすなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業に取り組む。	C		
校内漢字検定の意欲をさらに高める。目標指標合格率60%		A			
コミュニケーションを大切にした生徒指導の充実	生徒の内面や生活状況等を把握し、適切なアドバイスを心がけ、自立した社会人を育てる	日頃から生徒一人ひとりに積極的に声掛けを行い、相談しやすい関係を築く。	A	B	<p>積極的に生徒とコミュニケーションを図り良好な人間関係を築いていることが、学校が落ち着いた状況につながっている。</p> <p>少人数の利点を活かして生徒の変化にいち早く対応でき、生徒に対して細やかな評価をすることができている。指導に乗らない生徒は減ってきているが、生徒の自立の支援やマナー向上に対する指導が弱い。</p> <p>人権感覚や規範意識に関しては依然として課題がある。ダメだしだけでなく、状況を客観的に把握させて考えさせ自制を促す必要がある。</p>
		わずかな進歩でもしっかり評価し、積み重ねることの大切さを実感させる。	B		
		「あいさつの励行、話を聞く姿勢」を重点的に指導し、社会に好意的に受け入れられるよう人格形成を行う。	B		
		生徒の自己決定の場を多く作り、ファシリテーターとしての役割を意識しながら、自立できるようサポートする。	C		
	人権意識の高揚、規範意識の向上に取り組む	不用意な発言に対しては不適切な理由を論し、好ましい態度の育成を図る。	B	B	
		対話を通して自尊感情を高め、規範意識やマナーを向上させる。	C		
授業中の携帯電話や私語に対して粘り強く指導していく。		B			

生徒一人ひとりの個性を尊重した教育活動の推進	生徒の意欲、学校への帰属意識を高める学校行事・生徒会活動の実践	<p>体育祭、文化祭、遠足等の学校行事・生徒会行事の取組を通して、生徒の協調性、規範意識や帰属意識を高める。</p> <p>-----</p> <p>生徒会が主体となって行事を行うよう教員のサポート体制を整える。</p> <p>-----</p> <p>集団の中での自分の役割を見つけ、生徒全員が参加できるような行事を工夫する。</p>	B	B	B	<p>積極的に行事に参加する生徒が増えた。前年より生徒会が主体となって行事に取り組むことができたが、時間の壁もある。さらに生徒主体の活動となるように指導していきたい。</p> <p>低学年で進路学習を行ない、進路について深く考える機会を与えることができた。</p> <p>4年生については、進路面談を行ない、頻繁に声掛けをする等しているが、卒業後の行き先が見通せない生徒が残っている。</p>
	生徒の将来を考えた進路指導の推進	<p>卒業後の方向を具体的に示して将来の展望を持たせる。</p> <p>-----</p> <p>希望する進学・就職に向けて、学力面・面接等において十分な準備ができるよう指導する。</p>	B			
家庭・地域から信頼される学校づくりの推進	保護者との連携を密にし、共通認識のもと生徒の指導にあたる	<p>家庭訪問、家庭連絡等により成績や出席状況の連絡を密に行い、原級留置・中途退学の防止に努める。</p> <p>-----</p> <p>面談等を通じて情報提供と相談を行い、保護者と共に生徒の希望進路の実現を図る。</p>	B	B	B	<p>担任を中心に保護者と連絡を取っているが、連絡が届かないこともある。保護者の関心を学校に向けること、進路実現に向けての支援を得ることが課題である。</p> <p>ホームページ更新など広報活動においては、さらに地域と学校との連携を密にするための工夫が必要である。</p> <p>外部人材の活用については、生徒の意欲がより高まるように招く講師を考えていきたい。</p>
	地域との連携を図り、様々な機会を通じて情報を発信するとともに、地域人材を活用する	<p>行政を始めとして、各種サポート事業を活用し、生徒の学ぶ意欲や社会性を向上させる。</p> <p>-----</p> <p>行事ごとにホームページを更新する体制を作りあげる。</p> <p>-----</p> <p>地域からの要望に対して真摯な態度で対応し、生徒に社会の中でのあるべき姿についての指導を進める。</p>	B			
	各生徒に応じた適切な支援を行う	<p>教科担当、担任、養護が連携をとり、生徒一人ひとりの個性にあった適切な支援を行う。</p> <p>-----</p> <p>ユニバーサルデザインの視点に立ち、すべての生徒にとって学びやすい授業を展開する。</p> <p>-----</p> <p>生徒個々の状況を把握し、各種援護制度を積極的に活用する。</p> <p>-----</p> <p>学ぶ意欲の高い生徒、進学希望の生徒に対し適切な学習支援を行う。</p> <p>-----</p> <p>特性を抱えている生徒に適切な支援をするとともに、在籍中だけでなく卒業後も外部機関と関われるよう窓口となる。</p>	B	B	B	<p>教職員間の連携を図り共通認識のもと生徒対応をしているが、必ずしも最善な支援ができていないとはいえない。教員の専門知識や経験が不足している。専任教員の配置が必要である。</p> <p>基礎的な内容の授業展開になっているため、進学希望の生徒に対する支援が乏しい。</p> <p>ユニバーサルデザインについての理解が不十分である。研修等で学ぶ必要である。</p>
			C			

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業環境が改善し昔の面影はない。落ち着いて授業ができていて、ほとんどの生徒が参加している状況はすごい進歩だ。 ・ 就労者の困り事は基礎学力にある。授業の質は昔と比べて上がっているが、授業改善は教師の使命である。 ・ 学習指導・進路指導・生徒指導の3つを一体的に捉えた視点から学力向上に取り組む視点は、今後も大切にしていきたい。その視点を、学校教育全体に関わる活動の視点にも含めていただきたい。 ・ 今後も本校の特色を生かした取り組みを推進していただきたい。 ・ 授業規律、生徒指導などの課題解決に向けた具体的な方策について明確化して、さらに充実した指導をお願いしたい。
----------------------------------	--

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>[基礎・基本を重視した学習指導の充実]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的な学習参加の促進 ・ 学習指導の工夫・改善 ・ 複数の指導者による学習支援体制の拡充 <p>[コミュニケーションを大切にした生徒指導の充実]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 好ましい態度の育成を目指した粘り強い指導 ・ 良好な人間関係を基盤にした積極的な生徒指導 <p>[生徒一人ひとりの個性を尊重した教育活動の推進]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の自己肯定感・自己有用感を育成し、やる気を引き出す教育の実践 ・ 系統立てた進路指導による希望進路の実現 <p>[家庭・地域から信頼される学校づくりの推進]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動の活性化 ・ 保護者と連携した効果的な指導 ・ 各生徒に応じた適切な支援の充実
----------------------	--